

## 特別研修

### 月例研究会 議事録 ( 7 月 )

2007 年度第 3 回

<b>報告題名</b> タイ現地調査報告 (7/11-18)	
<b>報告者</b> 村松優里香 (所属分野) 資源政策学	<b>日時</b> 7月19日 午後3時~午後5時 <b>場所</b> 第7講義室
<b>座長</b> 池田	<b>議事録担当者</b> 阿部
<b>出席者</b> 工藤、斉藤、伊藤、冬木、川島、木谷、大鎌、両角、長谷部、石井、佐藤(章)、朴、澁谷、平口、鹿嶋、水澤、小山田、阿部、池田、鈴木、西橋、飯塚、大森、紺野、高嶋、デッフィ、村松(優)	
<b>報告要旨</b> 7/11~18にタイ国で行ったフィールド調査について 予定調査場所: Office of Agriculture Economics, アントーン県の村役場と農民グループ ・ 卒業論文で研究したタイ農村開発行政機構(~2001)が、当時実際にどのように働いていたのか。また現在の状況について。(県レベルと村レベルで聞き取り調査を行う予定です。) ・ 中部タイの農業の概要(東北タイとの比較も含めて) ・ 調査した村について(世帯数、土地面積、地理的情報等の基本情報、農業の形態、村の組織構造、農民グループなどについて、村役場で行う聞き取り調査の報告をします。) ・ 中部タイの農民グループへの聞き取り調査報告(Woman Farm Group in Angthon provinceにて調査を行う予定です。) ・ 修士論文のテーマについて(検討中)	

## 質疑・応答

池田：修士論文のテーマが絞りきれないとのことですが、どのようなことをテーマとしたいのか。その目的等も教えていただきたい。

村松：経済格差が拡がりつつあるタイの農村と農民グループを対象に研究テーマを絞りたい。東北タイと中部タイとの格差を、タイにおけるヒューマンセキュリティの問題と関連付けて、今後進めていきたいと考えている。

西橋：今回、タイで調査を行われたわけが、その調査の目的は何か。

村松：日本で文献を読むだけではタイの農民グループというものがよく理解できずにいたため、実際の村でインタビューを行いその実態を掴むこと、タイ農村の現状に関して自分の手で情報収集を行うこと、またその経験自体を目的として調査に行った。

西橋：今回の調査において、何か関心のもったことはあるか。

村松：産業化が進むYangthong村において、村がどのように変わっていたのかを、経済学的なアプローチで考察していきたいと考えている。

大鎌：3つのグループについて調査したが、そのグループの違いはあるのか？

村松：最初に訪れたグループは村の中での材料調達、販売など、小さなマーケットでモノが移動している。またグループで利益の一部を貯金していることから、農業外の余暇を用いて利益を得ることだけでなく、メンバー同士の相互扶助の目的も含んだグループと見ることもできる。後の2つのグループは、海外のマーケットを持つ商品をも生産しており、メンバーはグループを通して利益を得ることを主な目的としていて相互扶助的性格はあまり見られない、という印象を抱いた。

大鎌：調査したのは全て女性のグループであるが、その理由を教えてください。

村松：タイ農村部では、男性はバンコクへ出稼ぎに行き、女性は農業外の余暇を使って家計の足しになる収入を得ようと内職をしていることが多い。同種の内職を行う女性のグループは、タイ農村部でよく見られる農民グループの一つの主要な形である。今回調査したグループは、アクセスするための時間的・地理的な便利さも含めOffice of Agriculture Economicsの職員の方に選んでもらったもので、私が選んだグループではなかったが、タイ農民グループのメジャーな形という点で調査する意義があったと感じている。